

京文社TIME vol.1

KYOBUNSHA NEWS LETTER

CONTENTS

- 最新ニュース 1
- よもやまコラム 「編集、校正、校閲」 2
- 四季読み「季節のことわざ」 3
- スタッフから一言 3
- 製本豆知識 3
- すぼっと探訪 文京区「護国寺」 4
- 社長挨拶 4

2018. January

最新ニュース

■「CD/DVD デュプリケーター」を導入！

紙の書籍に代わってデジタル書籍の売上が伸びています。日本では主にマンガ雑誌からマンガの「デジタル書籍」へシフトしてきています。コンテンツのデジタル化が進むなかで、弊社でも紙の書籍から、PDF形式のコンテンツをCD/DVDに焼いて配布するというご要望を受け「CD/DVD デュプリケーター」を導入しました。

大量のCD/DVDのコピーのご用命にお応えできます。コンテンツをCD/DVDにて配布したいというご要望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



■ 2018年オリジナルカレンダー 大好評につき申し込み期間延長決定！！



昨年より販売をスタートしました「オリジナルカレンダー」、ご要望にお応えし、受付期間を延長いたしました！

この「オリジナルカレンダー」は、自分で撮ったお気に入り写真（お子様、絵や工作、ペット等々）で作るオリジナルカレンダーです。お部屋のインテリア、おじいちゃんおばあちゃんへの贈り物として、大変ご好評をいただいております。短期納品はもちろん、お客様のご要望にも細やかに対応できるよう努めております。

詳しくはこちら！→ <http://calendar.kyobunsha.biz/>

よもやま コラム

「編集、校正、校閲」

印刷・出版業界がデジタル化の波にさらされて、近年売上が低迷の一途を辿っている。

その影響か、東洋経済 ONLINE4 月 13 日号には「ブックオフ、止まらぬ『中古本離れ』でピンチ」「店への“持ち込み”減り、黒字化実現には遠い」というタイトルの記事が掲載されていた。また、漫画雑誌一強の少年ジャンプが 2017 年 1～3 月期で 200 万部割れというニュースも昨年のことだ。

京文社は「**応援出版**®」という自費出版事業に取組み、紙媒体での出版の価値をみなさまに再認識していただくよう努力している。

紙とデジタルの違いについては別の機会にお話するとして、今回はどんなメディアにおいても必要となる、コンテンツ（書籍）を創る上での**編集、校正、校閲**についてのお話である。著者が執筆した原稿を出版社が入手することを入稿と言う。それを指定のサイズのページにレイアウトして、**校正**用に印刷して著者にチェックしてもらう。この**校正**用の試し刷りを「**ゲラ刷り**」と言う。ゲラは galley（ガレー）船という大人数の漕ぎ手が船の両側で一斉に漕いで進む船のことだが、活版印刷の時代、活字を並べる枠箱をガレー船に見立ててガレーと呼び、それから転じて、ゲラ刷りと呼ばれるようになった。

ゲラ刷りをチェックする工程を「**校正**」と言う。入稿の「**稿**」と校正の「**校**」の漢字の意味は下記の通り。

稿：詩や文章などの下書き。（原稿、入稿）

校：まなびや（学校・校舎）比べて直す（校正、校閲）

校正は比べて正すことなので、原稿とゲラ刷りを比較して修正する作業となる。この場合、文章を読むのではなく、文字を「見る」作業となる。

一方、**校閲**の「**閲**」は調べるという意味である。**校閲**は、書かれている文章の意味や事実から誤りを見つけて正すこと。したがって文章を徹底的に読む必要がある。

原稿に書かれている歴史的事実について、もし誤りがあれば正すことも**校閲**に含まれる。例えば、以前は鎌倉幕府が開かれたのは 1192（イイクニ）と教わったが、近年ではこれが、1185（イイハコ）と教科書に載っている。

このように事実関係の整合性などを丹念にチェックする作業が**校閲**となる。

「**編集**」とは、書籍・雑誌などを作る時、企画、原稿依頼、入稿、校正、装丁、DTP（**Desk Top Publishing**）などの一覧の作業の総称。最近は紙媒体のみならず映像・音楽などについても**編集**という言葉が使われている。

元々**編集**とは素材を「**集**」めて「**編**」むことなので、出版社などが素材となる文章や画像・写真などを集めて、一定の方針にもとづいて書籍・雑誌を作り上げることを言う。

編集した原稿は、紙のサイズ（A4 とか B5 など）にあわせてレイアウトする。この作業を DTP と言う。原稿を紙のサイズに合わせてレイアウトするソフトはいろいろあり、たとえばマイクロソフトの Word でもできなくはない。多くの印刷・出版会社では Adobe 社の Indesign というソフトが使われておりほとんど業界標準となっている。

印刷は最終的に PDF ファイルとして出力し、印刷工程に回すことになる。PDF も元々 Adobe 社で開発されたものだが、現在は、国際標準化機構（ISO）で管理されているオープンスタンダードの 1 つになっている。

デジタルコンテンツにおいても基本的な作業は同じで、例えばホームページを創るときも同じような工程を経ている。画面だけではわかりにくいので画面を印刷した「**校正紙**」による**校正**も一般的である。

デジタルの場合はパソコン、スマートフォン、タブレットなどメディアが複数ある（これは紙のサイズが異なるのと同じ）ので各メディアごとのレイアウトのチェックも欠かせない。



四季読み

季節のことわざ

『犬も歩けば棒にあたる』

2018年は戌年。犬のことわざはたとえば江戸いろはかるたの一句目の「犬も歩けば棒にあたる」などたくさんあります。「犬猿の仲」とは非常に仲の悪いことをいいます。にも関わらず、桃太郎は鬼退治のお供に雉、犬、猿を家来として連れて行きます。なぜ仲の悪い犬と猿をお供にしたのでしょうか？

陰陽道では北東は鬼が出入りする方角として鬼門と言われています。方角では北を子として順に丑寅卯と続きますが北東は丑と寅の間の方角です。それで、鬼は牛の角とトラのパンツをはいています。中国では極楽浄土は西方にあるとされています。西は十二支の方位でいうと酉です。その南側が猿、北側が犬です。つまり、猿西犬は西方浄土を指すありがたい方角です。桃太郎はありがたい3匹のお供の力で鬼を退治できました。犬猿の仲を取り持つために間に酉を入れたという説もありますがみんな仲良く平和な世界にしたいものです。

スタッフから一言

こんにちは。営業部のFと申します。

昨年2017年11月で京文社は60周年を迎えましたが、今年2018年2月で私は京文社入社6周年を迎えます。入社を機に営業職に就きましたので、営業職6周年でもあります。

それまでも印刷業に携わってはいたものの、未経験の職種で不慣れな私が6周年を迎えることが出来ますのも、温かくお付き合いくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

7年目となる本年も変わらずお付き合いいただけますと幸いです。よろしく願い申し上げます。

自己紹介

名前：H. F
好きな食べ物：カツカレー、柿の種
好きな動物：猫
好きな場所：ハワイ
好きな製本：中綴じ製本



製本豆知識

其ノ1

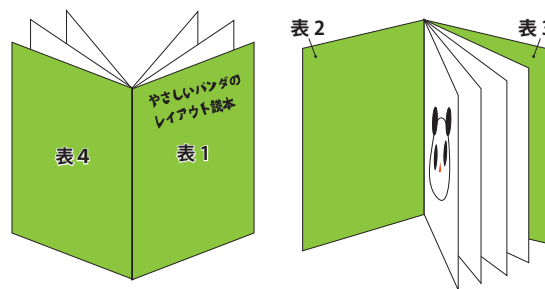
普段何気なく手に取っている書籍や雑誌。

その仕組みや製作過程をわかりやすく解説します。知れば、本がもっともっと好きになるかも！

1. 表紙にもそれぞれ名称があります。

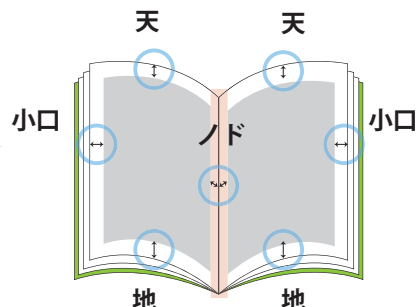
紙の本の各部の名称は右図の通りです。

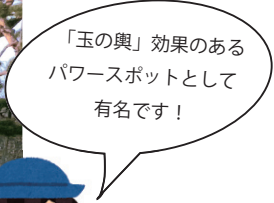
(図は左綴じの本ですが、右綴じの場合、タイトル側が「表1」となります)



2. 文字中心の書籍、冊子等の場合、**小口・ノドともに20mm以上**余裕をもたせると読みやすく仕上がります。

上下左右の余白のバランスが悪いと、写真や文字がノドに食い込んでしまったり、枠外にはみ出してしまったり・読みにくくなります。





「玉の輿」効果のある
パワースポットとして
有名です！

文京区の最強パワースポット『護国寺』

護国寺は1681年に「犬公方」の名称で有名な徳川五代将軍綱吉が母親のために建てたお寺です。皇族や公家にも縁があり、皇室の墓所である豊島岡墓地もあります。また、山県有朋とか大隈重信の墓もあります。このお寺は、真言宗の中の豊山派の総本山になります。

護国寺は女子にうれしい「玉の輿」効果のあるパワースポットとして有名です。綱吉の母親の名前は「お玉」、その後大奥に入り、産んだ子どもが将軍となったことで国母としての権力を握ることになりました。まさに日本版シンデレラストーリーですね。

※メトロ有楽町線「護国寺駅」出口隣には、なんとあの中村天風さんの「天風会館」があります！ check it out !

- 【アクセス】電車でお越しの場合・・・東京メトロ有楽町線「護国寺駅」下車すぐ
- お車でお越しの場合・・・首都高速五号線「護国寺出口」すぐ
- バスでお越しの場合・・・JR山手線「池袋駅」より都営バス「護国寺前」下車



社長挨拶

明けましておめでとうございます。

今年から「新しく皆様のお役に立てることを発信しよう」と思っているうちの一つがこの「京文社 TIME」です。「情報／言葉関連」「業界に関する話題」「弊社スタッフの話題」等を取り上げる予定です。

日頃お付き合いのあるお客様には、今までは違う面をお見せし、弊社を余りご存じない方には、少しでも興味を持っていただける内容にしていければと考えております。

どうぞご期待ください。



代表取締役 山岸京子

2018年1月発行



出版・印刷・デジタル 有限会社 京文社

〒112-0012 文京区大塚 6-32-5

TEL03-3943-4231

info@kyobunsha.biz

http://www.kyobunsha.biz/